

2022.10.8(土)

# 福井県立大学創立30周年記念式典

福井県の持続可能性を支える  
～県立大学これからの30年に向けて～

福井県立大学長／岩崎行玄

# 15,221名の卒業生を輩出 [令和4年3月現在]

→ 平成4年に4年生大学として開学

## 前身

(大正9年～平成12年)

福井県農業技術員養成所

474人

福井県立高等農業講習所

222人

福井県農業短期大学校

309人

福井県立短期大学

2,765人

福井県立大学看護短期大学部

895人

4,665人

## 学部生

(平成4年～令和3年)

経済学部

5,573人

生物資源学部

1,839人

海洋生物資源学部

497人

看護福祉学部

1,615人

9,524人

## 院生

(～令和4年3月卒業)

経済・経営学研究科

350人

生物資源学研究科

536人

看護福祉学研究科

146人

1,032人

合計 **15,221人**

# 組織改革に臨み、進化する県大

近年の改革

## 学部等

経済学部

経済学科  
経営学科

フィールドワーク, データ利用コース (令和5年)

生物資源学部

生物資源学科  
創造農学科  
(令和2年設置)

海洋生物資源学部

海洋生物資源学科  
先端増養殖科学科  
(令和4年設置)

看護福祉学部

看護学科  
社会福祉学科

学術教養センター  
地域経済研究所  
恐竜学研究所

恐竜学部(仮称)設置構想中

## 大学院

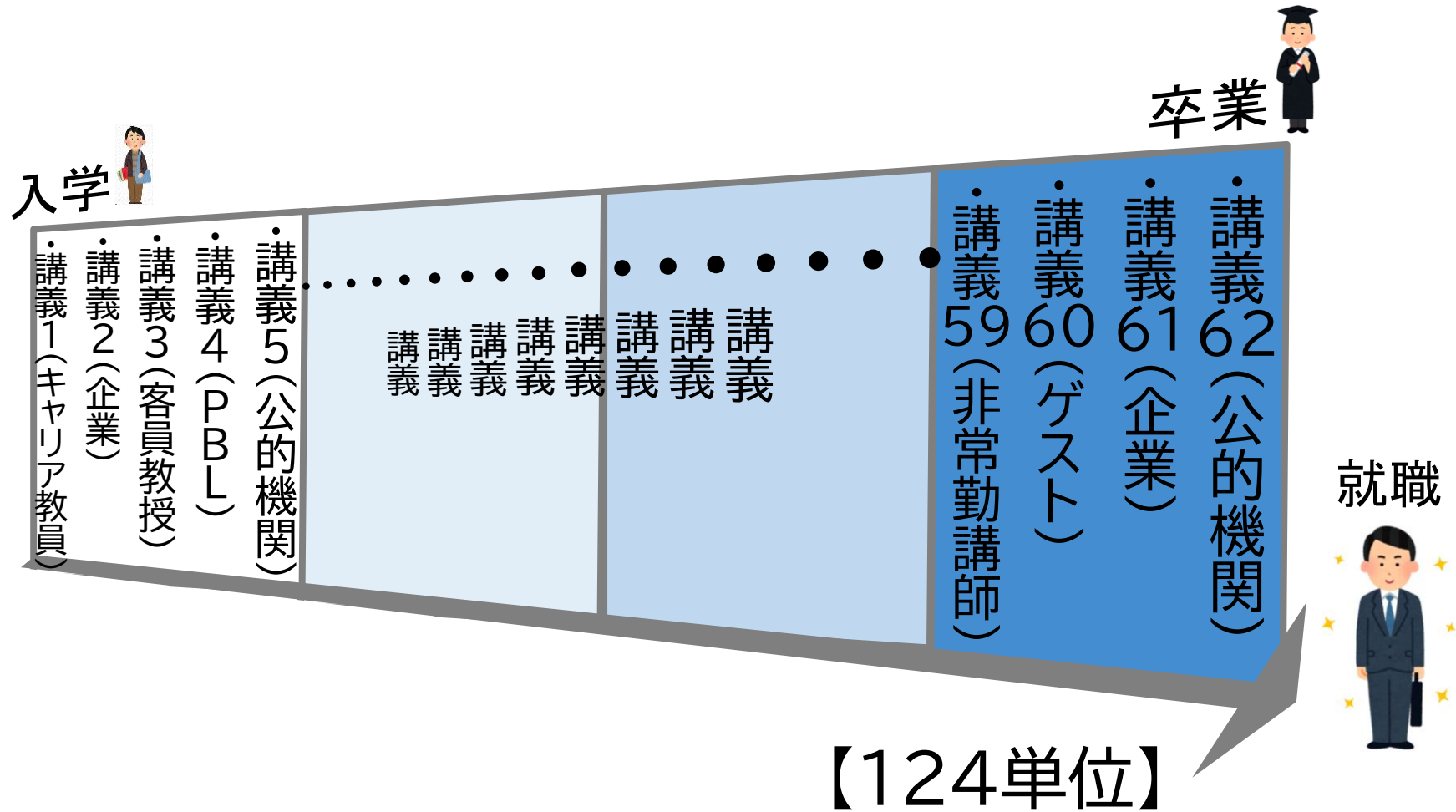
経済・経営学科研究科  
(博士前期課程、博士後期課程)

生物資源学科研究科  
(博士前期課程、博士後期課程)

看護福祉学研究科(修士課程)

健康生活科学研究科(博士後期課程)  
(令和5年設置)

# 【教育】講義の中に、社会人を招き、社会の風を入れる ことで、“いきなり就職”をさける工夫に着手



# 【教育】講義等に社会人を招く [全学部／講義の一例]

《令和3年度は、全学部で、約150講義に社会人を招いた》

学部	会社名、機関名	地域 or グローバル	授業名	場所
経済	(株)TOP	地域志向	基礎ゼミ・演習Ⅰ・Ⅱ	現地
	(株)フィッシュパス		演習Ⅱ	
	金融庁	グローバル対応	金融論および演習Ⅰ・Ⅱ	学内
生物	チーズ工房ラヴェリタ	地域志向	専攻演習／専攻実験	PBL
	前田工織		技術者と企業	学内
	バージニア工科大学	グローバル対応	生物資源学特別セミナー	
海洋	NPO法人森林楽校 森んこ	地域志向	地域活性化演習	現地
	小浜海産物(株)		フィールド演習Ⅰ	学内
	近畿大学	グローバル対応	大学院専門特別講義	遠隔
看護	福井県立病院	地域志向	老年看護演習	現地
	社福)永平寺町社会福祉協議会		SW実習指導Ⅱ	学内
	放送大学大学院	グローバル対応	フィジカルアセスメント	
学教	JTB	地域志向	観光学	学内
	大本山永平寺		宗教学	
	JICA	グローバル対応	教養ゼミ	

# 【研究】基礎・応用・実装研究に邁進

(基礎研究ですそ野を広げ、応用、実装研究で、成果を具現化するなど、多様性を確保しながら進化します)

## \* 地域連携研究推進支援 (実装研究)

外部有識者による審査



《2022年度》

- ・(株)福井銀行
- ・(株)TOKO
- ・福井県農林水産部

## \* 学長プロジェクト (実装研究)

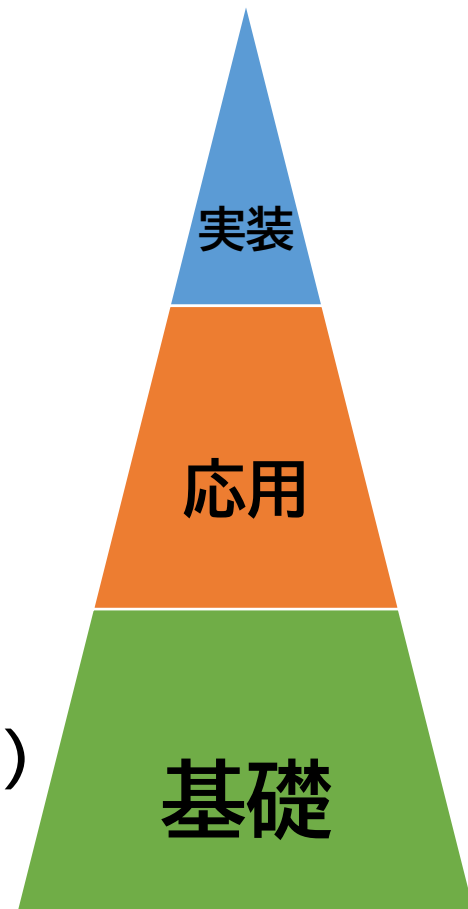
輸入品目を福井産へ

## \* 戦略的課題研究推進支援2 (応用研究)

県立大学の戦略的テーマ

## \* 戦略的課題研究推進支援1 (基礎力強化、裾野の拡張)

個人の発案によるテーマ



# 【研究】実装研究を推進／県大ベンチャー

[認定第1号]

## マイクロブケム(同)



微生物利用技術で、人工血管のコーティングや曇らない眼鏡レンズなど医療・医療薬素材化学分野での事業展開を目指す。

日本材料技研(株)



丸山准教授、濱野教授  
(福井県立大学)

[認定第2号]

## 県大アグリ



県大で育成したコメの新品種など、農作物品種の普及を図り、生産農家の所得向上を目指す。

三浦准教授  
(福井県立大学)

[認定第3号]

## (株)恐竜総研



恐竜学研究所の研究成果をもとに制作したデジタルコンテンツを3D広告・観光・デザイン・イベントなどでの利用を図り、地域産業の活性化を目指す。

福井新聞社



福井県立大学恐竜研究所

研究や技術を生かして起業⇒知的財産を社会に還元

# 【研究】学長プロジェクトが開く未来 [R4年度開始]

## 【生産者】

- ・県、国の食料安全保障に寄与
- ・都市圏を救済
- ・収入増加

穀物類



“輸入品目を  
福井県産”へ

養殖業



## 【若者】

- ・大人の仕事ぶりを見て農林水産業に従事
- ・アントレプレナーシップ
- ・県の人口増へ寄与

日本の食料自給率は

**37%**



# 【陸編】

研究体制総括：森川峰幸教授(生物資源学部 創造農学科)



- ・ 本県の気候に合う**パン用小麦**の品種開発



- ・ 本県の気候に合う**豆類**の品種選定と作型構築



- ・ 県産乳酸菌による**チーズ**開発



- ・ **植物性代替肉**の加工方法、調理方法の開発



- ・ **シリアル**食品原料の穀物品種の開発

# 【海編】

研究体制総括: 富永修教授(海洋生物資源学部 先端増養殖科学科)

## 【地域で完結する新規カキ養殖技術】

- ・カキ天然採集技術開発
- ・マガキゲノム編集技術開発
- ・育種生物の管理、養殖展開

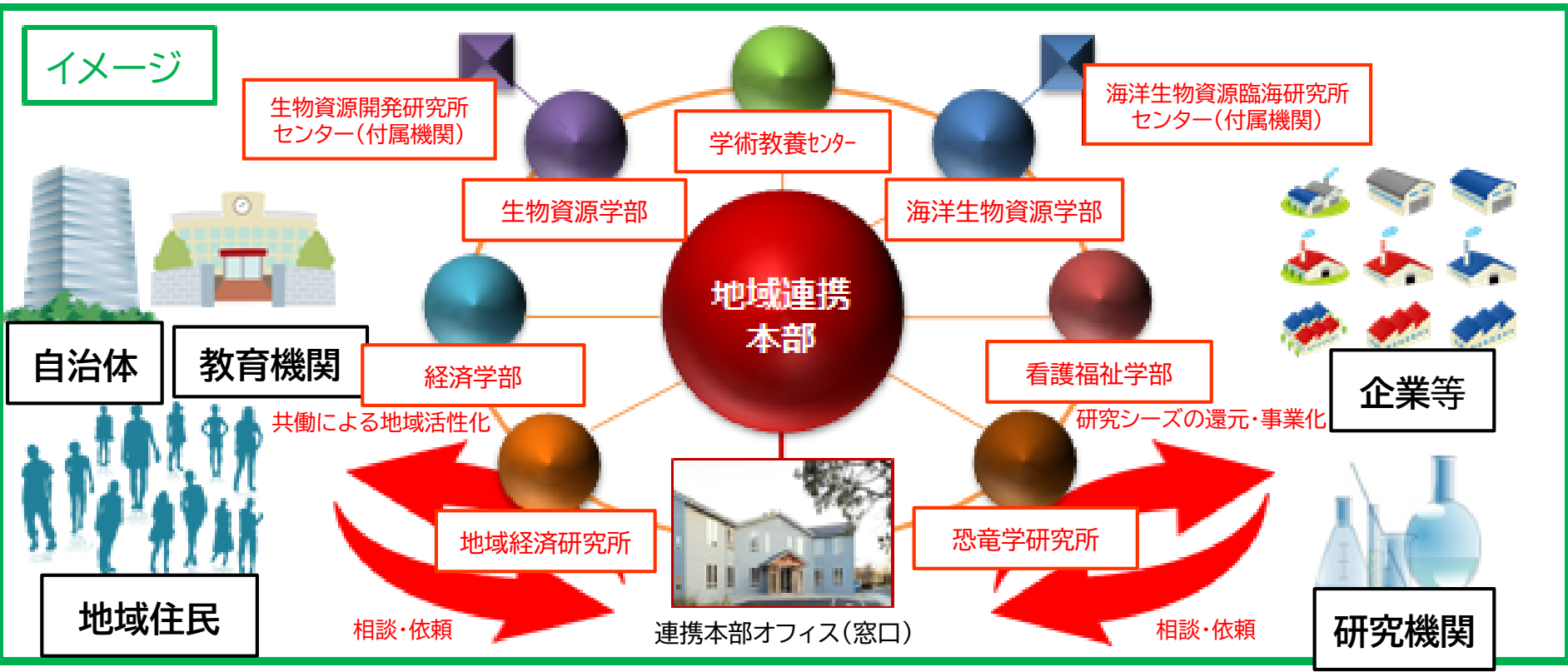


## 【魚粉代替として昆虫を活用した飼料開発】

- ・マサバ試験飼料の作製、試験魚の飼育、試験結果の解析
- ・マサバ試験魚の飼育、飼料の分析、試験結果の解析

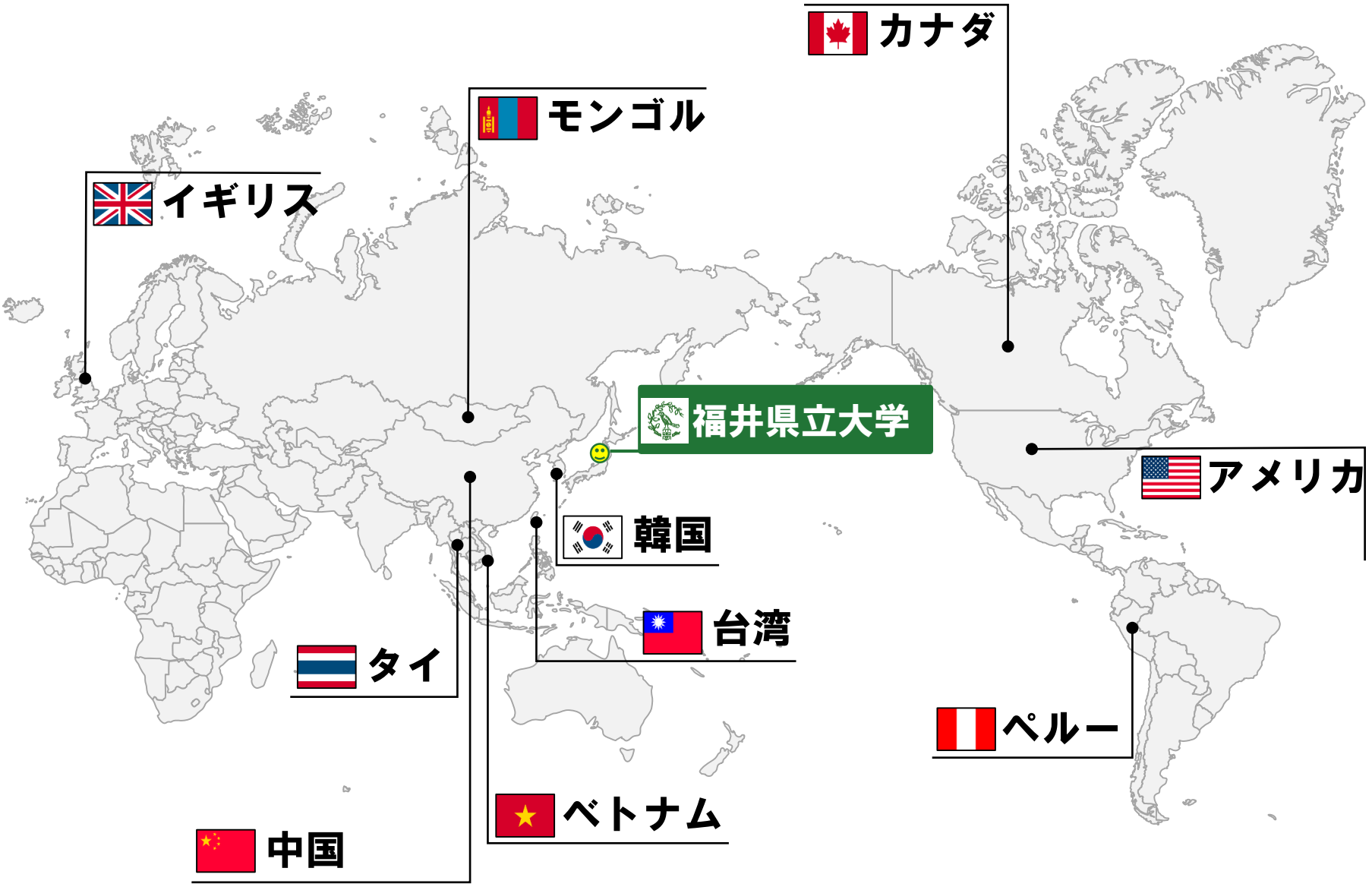


# 【Gateway】地域連携本部は県内の産官学を結ぶ役割



「県民・地域とのつながり」の強化を図る全学的組織。  
企業や団体、自治体、研究機関等、広く県民の皆様と、福井県の活性化に努めます。  
地域連携コーディネーターとして、『福井銀行地域創生チーム』に参加していただいています。

# 【国際化】県立大学では海外で学べるチャンスを提供



# 【学生支援】ボランティア等の応援／つぐみ賞創設(R3年)

今までに、5団体38名の学生に授与

《その一例を紹介》

生物資源学研究科学生	学会大会で発表し、優秀ポスター賞を受賞
クラブ部員	豪雪時、自主的に地域の除雪を行いました
ゼミ仲間	地域活性化支援事業の成果報告会でプランを披露し、最優秀賞受賞
経済・看護福祉学部学生	「フットサル女子日本代表候補国内トレーニングキャンプ」のメンバーに選出
生物資源学部留学生	ワールドカフェの運営に参加し、留学生と日本人学生との架け橋役を担ってきた
生物資源学研究科学生	学術講演会において講演を行い、学生優秀賞を受賞した
経営学研究科学生	財団法人理事を務め、その活動としてコロナ禍で困窮している学生に県産米240kgを支援した
生物資源学研究科学生	水仙の品質保持剤の開発、商品化に成功し、水仙の安定的供給に貢献し、ニュースにも取り上げられた
看護福祉学部学生	現役学部生として初めて日本訪問看護財団が主催する現役看護職向けのe-ラーニングを受講・修了した



本学では、学術研究活動や課外活動等で活躍した学生を顕彰する『福井県立大学つぐみ賞』を創設し、学生の取組みを応援する。

# ～これからの30年～

今まで  
30年の  
見える化  
を受けて

Improve

良いところは“伸ばす”

Stop

時代遅れは“止める”

Add

足りない所は“加える”

引き続き、ご支援よろしくお願ひいたします。  
本日の資料は「県大HP」に載せてあります。